

編集後記

今年度も年報「矢作川研究」を無事発行することができました。今号は第30号という節目となりましたが、これまでに掲載された原稿の数は、ご挨拶やシンポジウム記録等を除き、337編にのぼります。矢作川をはじめとする矢作川流域及び豊田市内の河川に関して、自然科学、人文科学、社会科学と様々な視点から数多くの知見が蓄積されてきました。このような「矢作川研究」を発行し続けられているのも、外部の投稿者や原稿のチェック者等の多くの方々のご理解、ご協力があつてのものです。改めて感謝を申し上げます。

さて、今号では、矢作川研究所研究員と外部の方々から投稿された原稿による調査研究6編、その他の報告3編のほかシンポジウム記録等を掲載しました。主な掲載内容は、矢作川やその支流における水質、生物の生息状況や生態、水辺愛護活動の支援や農業用排水路の環境改善に関する調査研究の結果や、新たに確認された外来植物への初期対応、水際緩斜面整備後の植生変化、市民参加型の川づくり活動等の記録となっています。

お読みいただいた皆さまのご意見、ご感想を寄せて頂けると幸いです。

令和8年1月

矢作川研究編集委員会